

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	15人	算数	15人	理科	15人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	27人	算数	27人	理科	26人
------	----	-----	----	-----	----	-----

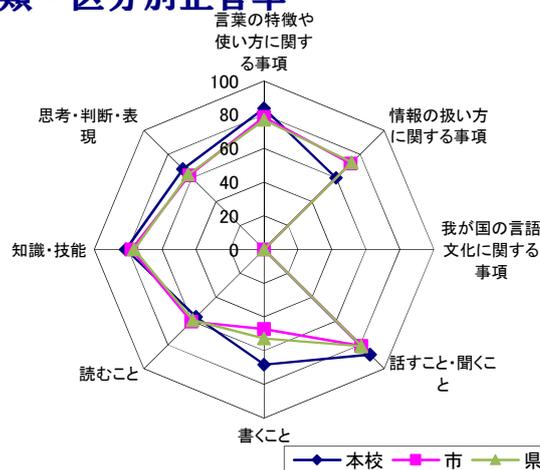
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	83.7	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	60.0	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	88.3	81.0	81.1
	書くこと	68.3	47.2	52.8
	読むこと	56.7	60.5	59.3
観点	知識・技能	81.3	78.0	76.5
	思考・判断・表現	67.5	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

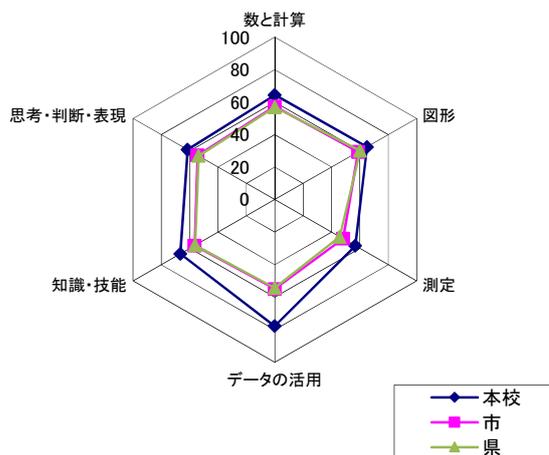
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○漢字を正しく読む問題の正答率は、どの問題においても市の正答率を上回った。</p> <p>●ローマ字で表記されたものを正しく読む問題の正答率は、市の正答率を10.2ポイント下回った。</p>	<p>・定期的な漢字ミニテストを行ったり、AIDリルなどで書き方を復習させることで記憶の定着を図りながら、漢字を書く機会・使う機会を増やしていく。</p> <p>・発音しながらローマ字表記の仕方を確認させることで音と文字の対応を意識させながら、身近なものについてローマ字で表す練習をしていく。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を12.2ポイント下回った。</p>	<p>・多義語の使い分けについて理解させ、慣れさせるために、文脈に合った表記や意味を調べて判断する練習を取り入れていく。</p> <p>・授業以外の場面においても、意味のわからない語句があった場合には、国語辞典を使って調べるよう促していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は100%であった。</p> <p>○司会者の話し方の工夫を捉えることができるかをみる問題の正答率は、市の正答率を5.6ポイント上回った。</p>	<p>・話し合い活動の際に、意図的に役割をもたせ、それに合った話し方を身に付けさせたり、工夫させたりする。</p> <p>・日頃から大事なことを聞き逃さないような話の聞き方を意識させて、その習慣を積み上げていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○自分の考えを明確にして文章を書くことができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を29.2ポイント上回った。</p> <p>○書くことの問題の全ての項目で、市の平均正答率を上回った。</p>	<p>・国語に限らず、他の教科や行事の振り返りなどにおいて書く活動を多く取り入れることで、書くことに慣れさせる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を9.7ポイント上回った。</p> <p>●叙述をもとに指示語の内容を捉えることができるかどうかをみる問題で、市の平均を17.2ポイント下回り、3割程度の正答率だった。</p>	<p>・読み取りの際に、常に叙述に戻ることや段落間の関係を意識させることで、読解力の向上を目指す。</p> <p>・国語に限らず、文章の中心となる語や文を見つけて要約する活動を多く取り入れていく。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.4	57.4	56.9
	図形	65.0	58.7	60.1
	測定	56.7	48.1	45.7
	データの活用	77.8	54.9	54.3
観点	知識・技能	66.7	56.6	56.2
	思考・判断・表現	61.5	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

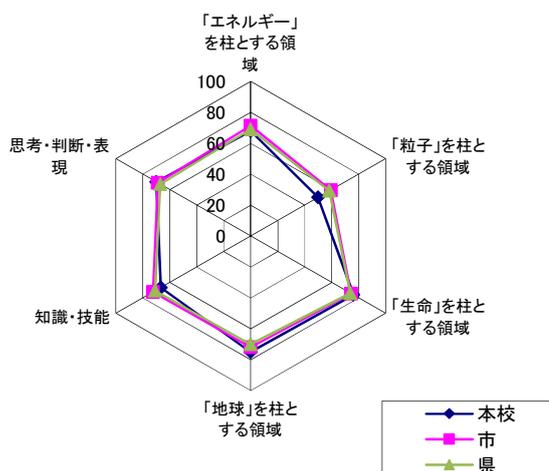
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○整数－小数第一位の計算の正答率は、市の正答率を25.4ポイント上回った。</p> <p>○分数の表す正しい大きさを答える問題の正答率は、市の正答率を17.7ポイント上回った。</p> <p>●式の意味を言葉で説明したものについて正しいものを選ぶ問題の正答率は、市の正答率を14.5ポイント下回った。</p>	<p>・朝の学習などを利用して、1人1台端末のAIドリルやドリルノートを活用し、四則計算に繰り返し取り組むようにさせる。</p> <p>・式が表す内容を、具体的な場面と結び付けて考えさせるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○正三角形の性質を理解し作図する問題の正答率は、市の正答率を17.8ポイント上回った。</p> <p>●球の半径や直径を利用して長さを求める問題の正答率は、市の正答率を14.5ポイント下回った。</p>	<p>・円と球の関係を捉えられるよう、立体が難しい場合には平面に置き換えて考える力を育てていく。</p> <p>・身の回りの図形に目を向けさせ、図形感覚を高めていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○重さを、基準値をいくつかで考え説明する問題の正答率は、市の正答率を20.0ポイント上回った。</p> <p>○はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題の正答率は、市の正答率を11.6ポイント上回った。</p>	<p>・問題文や条件の中から比べるものを明確にし、数量の関係を読み取る問題を増やしていく。</p> <p>・問題の意図を理解できるように、日頃から丁寧に指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○二次元の表から読み取ることができる正しい傾向を選ぶ問題の正答率は、市の正答率を33.2ポイント上回った。</p>	<p>・算数に限らず、社会科や掲示物など身近な資料からデータを読み取り、特徴を説明する力を養っていく。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.9	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	50.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	76.2	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	75.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	66.7	72.5	70.9
	思考・判断・表現	70.0	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることを答える問題の正答率は、市の正答率を5.6ポイント上回った。</p> <p>○空き缶は塗装を削ると電気を通すことを答える問題の正答率は、市の正答率を8.5ポイント上回った。</p> <p>●回路について理解しているかどうかを問う問題では、市の平均正答率を18.4ポイント下回った。</p>	<p>・実験のまとめに加え、データをもとに考察する時間を設け、事実を整理する力を育てる。</p> <p>・既習事項や身近な体験とを結び付けて考える機会を意図的に取り入れ、理解が深まるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●全ての問題で市の平均正答率を下回った。</p> <p>●同じ体積でも材質の種類によって重さは異なることを答える問題の正答率は、市の正答率を15.4ポイント下回った。</p> <p>●重さを比較しながら調べる際に、はかりを用いて正しく調べる技能が身に付いているかどうかを問う問題の正答率は、市の正答率を11.7ポイント下回った。</p>	<p>・実験結果から考察し、事実と結び付けて整理することで、理科的に捉え表現する力を育てる。</p> <p>・発展的に様々な問題を取り扱い、問題文を読み解く力を伸ばしていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○記録カードの差異点や共通点を基に、生き物のからだのつくりについて表現できるかどうかを問う問題の正答率は100%であった。</p> <p>○モンシロチョウとトンボの育ち方を比較して差異を答える問題の正答率は、市の正答率を17.2ポイント上回った。</p> <p>●植物の成長の過程について理解しているかどうかを問う問題の正答率は、市の正答率を8.4ポイント下回った。</p>	<p>・図鑑や資料に加え、観察を通して成長の様子を記録し、理解を深める場面を増やしていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○温度計の使い方が身に付いているかどうかを問う問題の正答率は100%であった。</p> <p>○太陽と日陰の位置関係と、日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ問題の正答率は、市の正答率を14.0ポイント上回った。</p> <p>●方位磁針の使い方が身に付いているかどうかを問う問題の正答率は、市の正答率を12.4ポイント下回った。</p>	<p>・身近なところに方位磁針を置くなど、日常的に方位磁針に触れられるようにし、方位感覚の定着を促していく。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」「宿題は自分のためになっている」の肯定回答が100%であった。学習に対してとても前向きな姿勢で取り組んでいることが伺える。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」への肯定的回答は80%と、市の平均を15.6ポイント上回った。日頃の調べ学習や自主学習を通して、いろいろな媒体から情報を集めたり、手段を使い分けたりしている児童が多いことが分かる。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定回答が100%であった。児童は、学習に面白さや楽しさを見出しながら、将来の自分のために前向きに学習に取り組んでいる様子が分かる。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」、「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答はいずれも100%であり、今後自分はどうなりたいかを意識することができている。

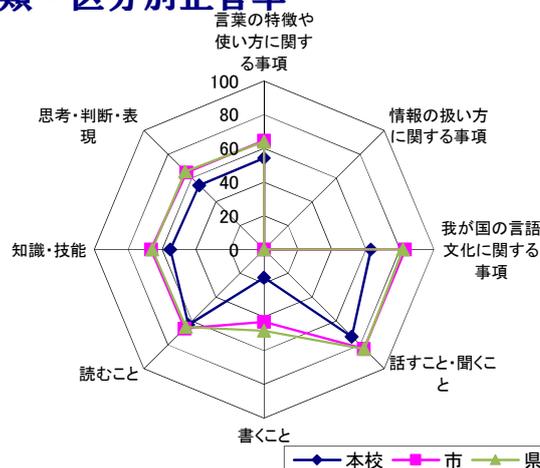
○「毎日朝食を食べている」「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定回答が100%であった。家庭における温かい関係性が育まれており、さらに、一日の生活の中で大切な食事をきちんと取るなど、健康についても考えられていることが分かる。児童が落ち着いて何事にも前向きに取り組んでいる現状基盤となっていると考えられる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」への肯定回答が割合が40%で、市の平均を11.4ポイントと下回った。自分の考えをまとめて書いたり、友達の話聞いて自分の考えを深めたりすることはできるが、分かりやすく発表することが苦手な児童が多いようである。クラスやグループ学習で、発言しやすいような雰囲気を作るようにしたり、ルールを作ったりすることで、安心して発表できるようにしていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	54.3	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	63.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	73.2	83.3	83.4
	書くこと	16.7	42.8	48.2
	読むこと	63.0	66.1	65.1
観点	知識・技能	55.2	66.5	65.9
	思考・判断・表現	53.9	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

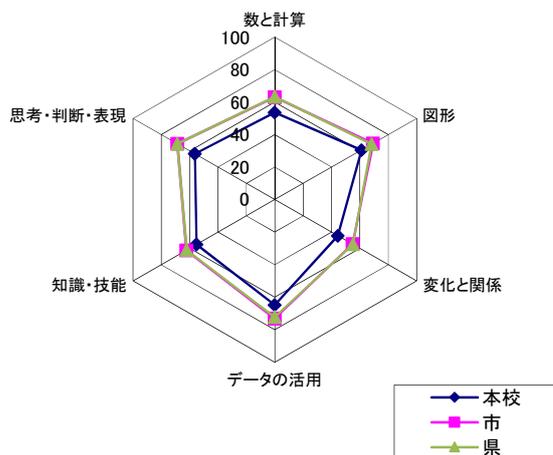
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○熟語の漢字の組み合わせを理解して、熟語の意味を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率より4.0ポイント上回った。 ●漢字を正しく読む問題の正答率は、市の正答率より25.6ポイント下回った。	・音読や漢字練習を通して、漢字の読み書きの力を高められるような指導を継続して行っていく。 ・ノートまとめや日記指導の際に既習漢字の使用を促すなど、日常的に漢字に触れる機会を増やしていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●ことわざの使い方を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率より20.1ポイント下回った。	・音読や漢字学習、慣用句やことわざに親しむ活動、話し合いや発表の場を通して、日本語の正しい使い方や表現の工夫を学び、伝えあう力を育てていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率より19.3ポイント下回った。	・国語の授業に限らず、朝のスピーチや授業中の友達の発言等を聞く際に、相手が伝えたいことはどんなことであるのかを考えながら聞くことを意識させる。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●指定された長さで文章を書くことができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率より31.8ポイント下回った。	・視点を明確にした振り返りや、テーマを決めた作文指導など、一人一人が自分の考えをしっかりとる活動を取り入れる。 ・他の教科でも、自分の考えを書く活動を積極的に取り入れ、自分の思いや考えを自信をもって文章で伝えられるようにしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○文章を読んで理解したことについて感想や考えを持つことができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率より8.3ポイント上回った。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率より15.3ポイント下回った。	・説明文を読み取る際には、段落ごとに内容を整理し、どのように説明されているのかを簡単にまとめる練習を行い、文章を正しく要約する力を育てる。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.6	63.0	63.3
	図形	61.1	69.2	68.3
	変化と関係	44.4	54.8	55.0
	データの活用	64.8	73.1	72.3
観点	知識・技能	55.1	62.3	62.1
	思考・判断・表現	56.4	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

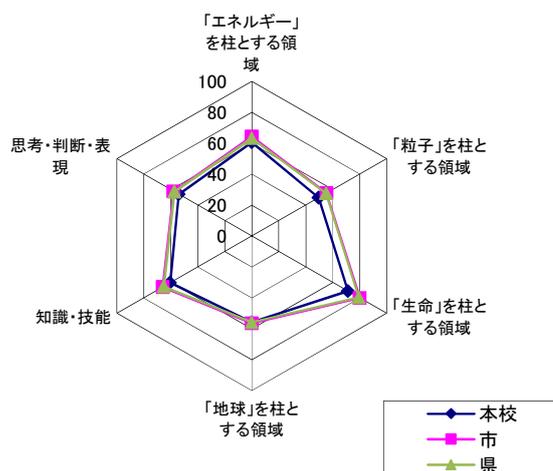
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表すことができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を3.3ポイント上回った。</p> <p>●小数のしくみを理解し、もとにする小数のいくつかで大きさを比べることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を35.5ポイント下回った。</p>	<p>・整数や小数の仕組みを確認し、1人1台端末でAIDドリルなどを活用しながら、多様な場面を想定した問題に継続的に取り組ませる。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○三角定規の角の大きさを理解し、組み合わせでできた角の大きさを求めることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を1.7ポイント上回った。</p> <p>●立体の構成要素から、立体を見分けることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を12ポイント下回った。</p> <p>●三角定規を組み合わせでできた角の大きさを求める式を立てることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を12ポイント下回った。</p>	<p>・直方体や立方体の構成要素(面、頂点、辺)が理解できるよう、具体物を操作し理解を深められるようにする。</p> <p>・既知の角を手掛かりにして、三角形の残りの角を順序よく導き出せるようにする方法を示唆したり、与えられた情報から角を求めることができるよう、具体操作を伴った学習の機会を増やしていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を15.7ポイント下回った。</p>	<p>・数量の関係に着目し、表を活用して規則性を見出し、数式に表現する活動を重ねていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を13.1ポイント下回った。</p>	<p>・算数だけではなく、社会や理科の授業や図書資料、掲示物などの身近にある様々なグラフからデータを読み取ったり、記録したりする経験を重ねていく。</p> <p>・グラフを読み取るときには、表題や縦軸・横軸、目盛りの大きさなどに着目するとよいということを繰り返し指導して定着を図る。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.6	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	49.6	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	71.2	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	55.8	56.4	55.8
観点	知識・技能	60.5	66.0	65.3
	思考・判断・表現	54.1	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○電流が流れない回路を流れるように改善できるかどうかみる問題の正答率は、市の正答率を12.7ポイント上回った。</p> <p>●直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて理解しているかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率から17.8ポイント下回った。</p>	<p>・電流が流れる仕組みや簡易検流計の使い方はよく理解できている。しかし、回路と電流の関係の理解に課題が見られるので、基礎基本の定着を図るために、朝の学習の時間や1人1台端末を活用して復習していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○実験結果のようになった理由を、温度による空気の体積の変化に着目して答える問題の正答率は、市の正答率を11.3ポイント上回った。</p> <p>●閉じ込めた空気は押し縮められるが、水は押し縮められないことを理解しているかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率を25.7ポイント下回った。</p>	<p>・実験の結果を考察し、起こった事象の理由を考えたり、学んだことを実生活に結びつけて考えたりすることに課題が見られる。そのため、日常生活においても、理科学的な視点を大切にすることを意識させ、知識の定着や思考力の向上を図っていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○人の手や腕の骨と鳥の翼の骨について、骨の数に着目して差異を答える問題の正答率は、市の正答率とほぼ同じであった。</p> <p>●夏に記録されたサクラのようすを示した図を選ぶ問題の正答率は、市の正答率を14.4ポイント下回った。</p>	<p>・観察活動では、観察する観点(色・形・大きさなど)をしっかりと示したり、文章に示す場合は、長さや数などの数値も書くように指示を出したりすることで、生き物への興味・関心を高められるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の正答率より低い。</p> <p>○1日の気温の変わり方を示したグラフを適切に読み取った内容の文章を選ぶ問題の正答率は、市の正答率を16.9ポイント上回った。</p> <p>●窓に結露が発生する理由と、結露の水滴がつく場所について述べた文章に当てはまる語句を選ぶ問題の正答率は、市の正答率を22.8ポイント下回った。</p>	<p>・知識や実験結果から考察し、身近な事象と結び付けて考える力に課題が見られる。日常生活に理科学的な視点を取り入れ、学習内容の理解を深め、思考力を高めていく。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、不思議だななぜだろうと感じることもある」の肯定的回答は92.6%で、市の平均を7ポイント上回っている。また、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の肯定的回答は88.9%で、市の平均を6ポイント上回り、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の肯定的回答は88.9%で、市の平均を13.7ポイント上回っている。このことから、普段の生活からたくさんの方に疑問を持ち、学習する内容を地域や世の中の出来事と結び付けていることが分かる。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」、「国語、社会の学習はしょう来のために大切だと思いますか」、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の回答も100%の児童が肯定的回答をしており、将来のために学習をすることは大切であると感じている児童が多く、意欲的に学習に取り組んでいると言える。

○「自分は家族の大切な一員だと思う」、「家で決まりや約束を守っている」の肯定的回答がいずれも100%であり、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答も92.6%であるため、家庭生活を満足して過ごすことができていると言える。

○「学校の決まりを守っている」の肯定的回答が100%、「学校での役わりや係の仕事にせきんをもって取り組んでいる」の肯定的回答が96.3%であるため、学校で決まりを守り、周りの人と関わりながら生活できていることがうかがえる。

●「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定的回答が100%であったにもかかわらず、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答が55.5%と低く苦手意識を持っていることがうかがえる。そのため、自信をもって話せるような環境づくりを整えていくことが必要であるとともに、苦手意識を克服できるような声掛けをしていきたい。

●「今回の調査で、国語、算数、理科の問題をとく時間は十分でしたか」の肯定的回答が国語は55.5%で市よりも10.3ポイント、算数は77.8%で市よりも2.6ポイント、理科は77.8%で市よりも12ポイント下回っていて、全ての教科が市の肯定的回答を下回っている。つまり、問題に取り組む際に時間を効率的に使えていないことが分かる。限られた時間の中で見通しを持って取り組んでいくことを普段の生活から培っていけるようにしたい。

宇都宮市立上河内東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力を高めるための取組	学校全体で、児童が考えを深めたり伝え合ったりする力を育てるために、「書く活動」を計画的・意図的に授業や学習に組み込んでいく。	段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書くことができるかどうかをみる問題では、正答率そのものが低かった。自分の考えを言葉にして表す経験を重ねるなど、引き続き書く力を高める指導を継続していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と答えた児童が過半数を超え、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問に対する肯定的回答が低かった。	自分の考えを形成し、表現する力を高める取組	児童が自分の考えを形成し表現する力を高めるために、問いを投げかけて考える場を設け、対話的な活動や振り返り記述を行うことで、思考の深化と表現力の向上を図っていく。